

長岡税務署長賞

税が支える生活

長岡市立東北中学校

三年 網 郁乃

「ガアー・ガアー。」

冬の早朝、除雪車が雪をかくこの音で目を覚ますことがあります。この音を聞いた朝、玄関のドアを開けると昨夜、降りつもっていた雪がきれいに整備されています。そんな日は雪に足がとられることもなく学校に向かうことができます。逆に除雪車が通らなかつた日は学校へ向かうのに時間がかかり足元を気を付けながら行くためすごく大変です。私たちが暮らす雪国の生活には除雪車は欠かせない存在です。この除雪車は市が走らせておりこうした市の活動は税金で、まかなわれています。

増税の話が出るとたくさん払わなくてはいけなくなると多くの人があまり良いイメージを持たないと思います。実際私も商品を購入する時百五十円でよかつたのが消費税が八パーセントに上がり百八円になった時は、今までより多く払わなきゃで増税に反対する人の気持ちがよく分かりました。

しかし私たちの生活を支えてくれている除雪車は税金があるからこそ走り雪を除けることができています。もしみんな

が税金を払わなくなればどうなるのだろう。除雪車が走れなくなるのはもちろん、救急車や消防車、ゴミ収集車など私たちの命や生活を守る車を走らせることもできなくなります。また美術館や水族館・博物館など私たちの生活を豊かにする施設も気軽には利用できなくなります。

私は税について考えて初めて生活と税金の深い関わり―税金が生活を支えているということが分かりました。

多くの人が税金を払いたくないと思っているのは自分が払った税金が、どのようにして使われているのかはつきりと見えていない、あるいは意識して見ていないからなのではないかと思えます。実際公立学校の生徒一人に約九十八万四千元も税金が使われていると知りとてもおどろいています。

こうした税の使われ方を知ると、しっかりと税を払うことへの抵抗感は薄れ、きちんと税を納めるべきだというように考えが変わりました。

社会保障が充実している北欧諸国では日本に比べてはるかに高い税金を払っていますが、税金を高いと感じている人の割合は日本よりも低いというニュースを見ました。これは、税金が自分たちの生活を支え豊かにしている実感があるからだとも言っていました。

将来、社会人になってからも税金の使われ方を意識し、安心して暮らせる社会、豊かな生活を続けていくために税を納めていくと同時にその使われ方にもしっかり目を向けていきたいと思えます。

